

農村生活マイスター協会佐久支部 フードバンクに対する食材提供の取組みを開始しました

農村生活マイスター協会佐久支部では、本年度、毎年各支部で実施しているチャレンジプラン推進モデル事業のテーマを「SDGsへの意識を高めていこう!」とし、全会員への意識調査やSDGs目線で各自大切にしていることを捉え、また、マイスターとして行える取組みを考えていくことになりました。

そこで岩水支部長自らが「まずは動いてみよう!」ということでフードバンクに協力するため、地元である川上村のマイスター並びに有志の方々とともに、佐久管内の子ども食堂に対する第1回目の食材提供を7月21日に行いました。

当日は、川上村特産のレタスを始めとした葉物野菜や自家用として栽培した野菜提供を行いました。活動を長く続けるために「無理をせず」、「余裕があれば」といった気持ちで進めていきたいとしており、今回提供された食材は、佐久管内5ヶ所の子ども食堂に運ばれ食事会等に活用されて、今後も月1回程度のペースで実施していく予定としています。

「フードバンク」や「子ども食堂」といったキーワードへの気持ちは持っていたものの、どこからはじめていいのか模索していましたが、担当している行政機関と繋がりを持ち、課題となっていた長期間保存ができない生鮮品の取り扱いへの協力も得られ、思いを形にすることができました。

農村生活マイスターでは、食と農を伝承していくことが重要な役割の一つとなっていることから、こうした活動を通じて多くの人に食と農の大切さを伝えていただくことを期待します。



運び込まれた食材の受渡しの様子



フードバンクで思いを形にした岩水支部長(右)